

リスペクト、を感じる時



佐々木 葉
論説委員
早稲田大学創造理工学部
社会環境工学科教授

2012 年暮れの政権交代以来、景気対策としての公共事業が大規模に進むこととなった。様々な議論はあろうが、世間一般には、「経済対策のために公共事業を行う」のだ、と理解されているだろう。つまり、公共事業は景気向上の手段ということなのである。

翻って 2003 年に国土交通省から出された「美しい国づくり政策大綱」の前文には、「私達は、社会資本の整備を目的でなく手段であることをはっきり認識していたか？」¹⁾とある。ここでは、何のための手段であると謂わんとしているのか。直接は書かれていないが、戦後においては荒廃した国土の復興、そして経済成長の基盤づくりの手段であり、さらには、国民一人ひとりにとって魅力ある国土づくり、美しい国づくりといった、その時々を目的を掲げ、いまの公共事業が目指すべき方向性をよくよく考えるべきだと問いかけている。おりしも安倍晋三氏は総裁選をにらみ 2006 年に「美しい国へ」²⁾という本を出していた。再度首相となった今、経済再生によって達成しようとする社会とは、具体的にどのような姿として思い描かれているのだろうか。首相の意にかかわらず、土木の世界の一員として、どのような公共事業を行えば経済は再生し、さらにどのような経済が再生すれば、私たちは幸せになれるのかを自問する必要がある。ここでは、マクロなしくみの話から程遠い、個別具体的場所と人の気持ちのレベルで考えてみたい。

「その仕事に、リスペクトを感じる時」。これが、私が最も大切に思うことだ。その仕事をなした人に対するリスペクト。自然や場所に最大限リスペクトを表した仕事。そういったものに触れたとき、それを引き継ぎ、守り、伝えたいと強く思う。それが私自身の仕事のエンジンとなる。例えば歴史的な橋の再生、という仕事。百年以上前に新たな設計方法に挑み、気の遠くなるような数のリベットで組み立てられたトラス。日本鉄道土浦線（現常磐線）隅田川橋梁は 1896 年に隅田川に架設され、その後解体、1929 年に新鶴見操車場をまたぐ江ヶ崎跨線橋に転用される。そして 2009 年、土地利用の転換に伴って撤去棄却されるその寸前に、心ある人々の気持ちが繋がり、再び利用する道を模索するべく部材が保存された。幸いにも横浜市内で計画されていた橋の架け替え事業に転用することとなった。設計は部材強度の確認から始まる。新設よりもはるかに手間がかかり、リスクもある。コス

トもある程度は上がる。しかし、それでもなお百年前の部材を使おうという意志は、いわゆる文化の継承という言葉を超えた、リアルなものが語る力に対する個人的な敬意があったのではないか。施工はさらに大変であった。錆を落とし、リベットの傷み具合を一本一本確かめ、必要な場合はそれを抜き取りボルトに換え、部材の欠損部分を補填し、切断部を接合する。その一つ一つにこれでよいだろうか議論を重ねる。理屈を超えた仕事ぶりである。11 月末に現場に据えられたそのトラスは、見たことのない不思議な存在感を伴って新たな人生を歩み始めた。クリスマスを迎えた工事期間中には仮設の燈具で照らしてあげようと、現場の方々の愛情が伝わる。その橋の名前は霞橋。横浜市中区新山下運河にかかる³⁾。この仕事に関わった顔と名前のわかる人々、そして名前も顔もわからない人々。さらには、このひとつのトラスの背景にあったより多くの不可視な、しかし確実にあった人との時。そういった直接は知りえない存在と今日の自分とが繋がっているという感覚。このマインドなくして、パブリックワークスは成り立たないのではないかと。

その一方、目に見えて手にも触れた人々のエネルギーをどぶに捨てるような決断が下されることがあった。広島市で行われた橋の国際コンペによって選定され、それに基づいて設計が進んでいた事業が、突然中止された。彫刻家イサムノグチがデザインした高欄を有する平和大橋に併設する歩道橋のプロジェクトである。イサムノグチという彫刻家への敬意と、平和公園という場所性、太田川における水辺デザインの蓄積といった場に刻まれた思いを継承し、さらに新しい仕事を重ねるべく、多くの人が果敢に挑み、心血を注いだ仕事だった。それが近隣住民の理解が得られなかったという理由から葬られた⁴⁾。詳しいことは語れないが、その判断には、リスペクト、という感覚のかけらも感じられない。

さて、これから何兆円という額のお金が投入されていく仕事において、一体、いくつのリスペクトに会えるのだろうか。転変激しい世界のなかで、日本という国が生き残るためには、この国の仕事が世界のリスペクトを得られるかが鍵となるのではないかと。そのような仕事はやはり、形に、手触りに、風景にして示す必要があると私は考える。

- 1) 「美しい国づくり政策大綱」の全文は国土交通省景観ポータルサイトの Web ページに掲載されている。
- 2) 安倍晋三「美しい国へ」文春新書 2006
- 3) 霞橋については以下の論文等を参照のこと 上野淳人・大波修二・三谷祐一朗・鈴木淳司・尾栢茂「116 年前に造られたブラストトラスの再生工事の紹介—隅田川橋梁から江ヶ崎跨線橋を経て霞橋へ」土木史研究講演集 Vol.32 2012
- 4) 平和大橋歩道橋のデザインについては、新井信博・高楊裕幸・西村浩・初鹿明・黒島直一・西村渉「平和大橋歩道橋の設計」橋梁と基礎 Vol. 45, 2011-5, pp. 6-9、事業中止の記事は日経ケンブリッジ土木 2012 年 8 月 16 日「国際コンペまで実施した平和大橋歩道橋が建設中止」などを参照のこと。